年　組　番号(　　)　名前

変わらない 懐かしさ

「さんぽみち」にもう一度光を

木々が生い茂る緑のトンネルの隙間から木漏れ日が差し、山道は優しい空気に包まれていた。「60年近く歩いているけど、この道の雰囲気は変わらない」。信夫山を長年見守ってきた浦部博さん(88)にとっては「心のよりどころ」だ。都市公園の指定から150年、福島市のシンボルは懐かしさを感じさせる景色のまま、訪れる人を出迎え続けている。

「トトロ」の世界観

市中心部にそびえる信夫山は、中腹の羽黒神社に大わらじを奉納する「信夫三山暁まいり」が有名だ。だが、長い歴史の中で培われてきた名所は数多い。

信夫山研究会会長を務める浦部さんが「変わらない」と語る山道もその一つだ。映画「となりのトトロ」の世界観を感じられるとして、ガイドセンターを運営するNPO法人ストリートふくしまが通称「さんぽの小径(こみち)」と名付けた。戦後、疎開で福島市に住んでいた童話作家の中川李枝子さん(14日死去)が、信夫山のイメージを膨らませてトトロのテーマソング「さんぽ」の詩を書いたエピソードに由来しているという。

元々は「名前がない道だった」(浦部さん)。150周年を機に、こうした隠れた観光資源にもう一度光を当てて人を呼び込もうとするプロジェクトが、市内の有志によって動き出した。目玉は「信夫山フットパス」だ。「さんぽの小径」や柔和な表情の地蔵が並ぶ「二十四地蔵」、東北新幹線の開通時に際し工事で亡くなった人を追悼する慰霊碑、市内を一望できる鳥ケ崎など、歴史を学びながら名所を巡る四つの散策路を設定、27日に披露される予定だ。これらを観光資源とし、大わらじ奉納に由来する健脚文化も発信しようと、散策路を盛り込んだ地図も新たに作成した。

かってのにぎわい

「宝の山」。発起人で同NPO理事長の山尾良平さん(65)は信夫山をこう表す一方で「市民にも浸透しているとはいえない。フットパスを通してもっと多くの人に魅力を知ってもらい、かってのにぎわいを取り戻したい」と切に願う。

市によると、信夫山公園の観光客入り込み数などの統計はないが「かつては遠足などでたくさんの子どもたちが訪れていた。改めて『シンボル』として人を呼び込みたい」と山尾さん。新たな取り組みを通して、映画のワンシーンのように子どもたちの歓声が響き渡る信夫山を思い描く。

◇

信夫山公園は20日、開園150周年の節目を迎える。福島市のシンボルとして積み重ねてきた歴史や、観光資源化を目指す新たな取り組みを紹介する。

Q 信夫山　福島盆地の中央に位置する緑の里山で、360度の景観を持つ。周囲約7キロで大きさは皇居とほぼ同じ。1874(明治7)年10月20日に都市公園に指定された。伝統祭事「信夫三山暁まいり」では、山中にある羽黒神社に日本一と称される大わらじが奉納される。

信夫山の南側に位置する「さんぽの小径」。映画「となりのトトロ」のテーマソング「さんぽ」の歌詞の基になったといわれている

▲ 10月20日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

調べてわかったこと、考えたこと（330字程度）

中川季枝子さんの代表作「ぐりとぐら」をもう一度読み返したくなりました。皆さんはどうですか？

福島民友投稿のページ「窓」に送る